

地元大学の協力により新規開発商品の機能評価と市場展開

株式会社 アルフ (山形県)

すぐれた機能と高い汎用性を持つLinux搭載M2Mデバイスの市場展開に向けて

1. 相談のきっかけ

・当社の米沢開発センターが開発した新型端末「Bishop」は非常に汎用性が高い一方で、M2M(マシーン・ツー・マシーン)端末市場は大手他社のシェアが高く、新しい市場開拓、ソリューションの活用ニーズを発掘したい。
・山形県企業振興公社の地域コーディネーター(山形県置賜総合支庁駐在)からの紹介で、山形大学工学部米沢街中サテライトキャンパス内に窓口を置く当拠点を来訪。

2. 課題整理・分析

・今回開発した端末の特徴は、
①OSにLinuxを採用、
②docomoのFOMA通信網で全国どこでも高速通信が可能、
③当社はMVNO(仮想移動体通信事業者)、業務用に特化した大容量・低料金プランにも対応できる、④GPSも標準搭載、と機能満載ながら大きさは12cm×12cmとコンパクトで同種M2M端末と比較して非常に優れた機能であることが分かった。
・一方、汎用性が高いために何に使えば良いかを明確に打ち出し、提案力を強化したうえで市場展開することが必要と分析。

3. 解決策の提案

・山形大学の研究シーズを探索して工学部応用生命システム工学科の研究室でセンサー関連が専門の准教授との同行面談を提案。
・新型端末の機能評価を受けるとともに、学術的にどのような用途に向いているかアドバイスを受けるよう提案した。



4. 成果

・山形大学工学部の准教授はちょうどそのとき「センサデータ収集解析システム」を研究中で、「Bishop」の説明を受けたところ、この「Bishop」が当該システムの遠隔監視に非常に向いている端末であることが判明した。ただちに試験機の提供を行い共同で事業化検証にあたることになり新用途展開への大きなステップを踏み出した。

・また同研究者は「Bishop」の優れた機能と高い汎用性を評価しており、市場参入の足がかりとして学会での展示を提案され、当該年度山形大学で開催の電気関係学会展示会へ紹介してもらって出展することができた。

・電気関係学会東北支部連合大会展示会では、22名もの大学研究者・企業関係者に「Bishop」の説明する機会を得ることができた。電気電子関係やセンサー関係での商談のほか、東北地方の大学からは医療系での応用を検討したいとの案件もいただいた。そのほか、学会に参加した山形大学の複数の助教からもリアルタイム通信などへの応用を考えたいとして、さらに2台の「Bishop」を提供することとなり、あらたな用途の探索と市場展開が期待できることとなった。

平成26年度 電気関係学会・東北支部連合大会(2014/08/21)の記事画像

<相談者の声>

ご紹介頂きましたご縁のお蔭をもちまして山大で行われた「電気関係学会東北支部連合大会」の展示会に当社製品のBishopを展示することになりました。業界の展示会参加経験はありますが学会の展示会は初となり、社内的にも効果があったと判断しております。

